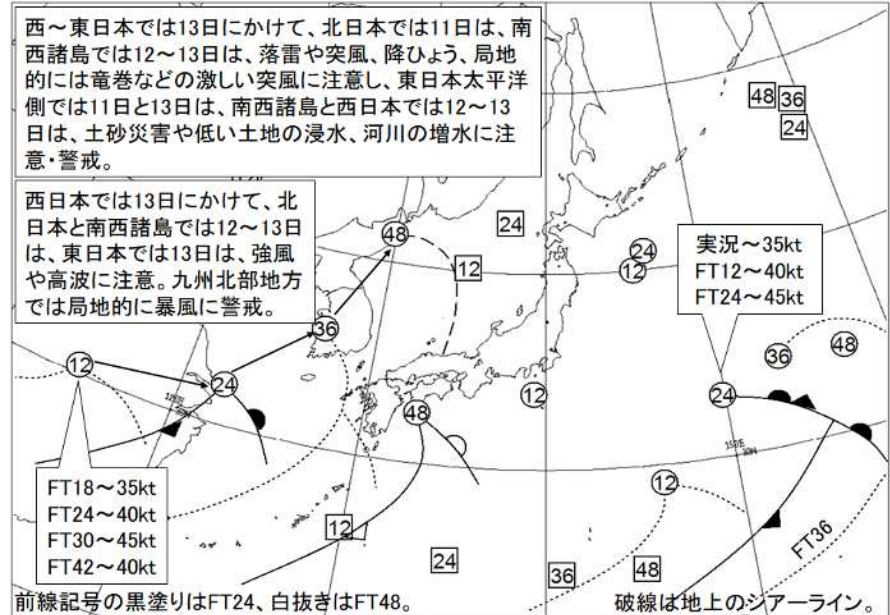


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5520m付近で-24℃以下の寒気を伴うトラフに対応した低気圧が三陸沖を北東進。また、500hPa 5580m付近のトラフに対応した低気圧が日本の南を東北東進。西～東日本の太平洋側では、活発に発達し、激しい雨や非常に激しい雨を解析、栃木県でメソサイクロンを検出。
- ② 500hPa 5760m付近のトラフに対応して前線を伴った低気圧が小笠原近海を東北東進。
- ③ ①②の低気圧や前線の近傍では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の日本の南の低気圧は、11日夜には伊豆諸島付近へ進み、12日朝までに不明瞭になる。1項②の三陸沖の低気圧は12日夜までに不明瞭化する。1項③の低気圧は、12日にかけて発達しながら日本の東へ進む。前線や低気圧に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、大雨となる所がある。また、低気圧や前線の近傍では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き波が高くなる所がある。東日本太平洋側では11日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、北～西日本太平洋側では11日は、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風、強風、高波に注意。
- ② 11日夜までに、500hPa 5640m付近の正渦度極大域に対応して前線を伴った低気圧が華中で発生。12日は、この低気圧が閉塞しながら朝鮮半島付近へ進み、前線が低気圧から九州の西を通過して台湾付近へのびる。13日は、朝鮮半島付近の低気圧が中国東北区に進み、低気圧からのびるシアーラインが西～東日本の日本海側を通過する。また、朝までに西日本太平洋側に発生する低気圧が東日本太平洋側へ進む。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。また、低気圧や前線およびシアーラインの近傍では、気圧の傾きが大きくなり、強い風や非常に強い風が吹き波が高くなる所がある。南西諸島や西～東日本では、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、全国的に強風、高波に注意し、九州北部地方では局地的に暴風に警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時から24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：九州北部・九州南部・奄美3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。